地産地消

学校の地産地消

あさぎり町内の学校では、教育の一環として「食を知り、農を学ぶ」体験と共に地産地消活動に取り組んでいます。

学校近くの農地でのサツマイモづくり、茶摘み、田植え・収穫体験、アイガモ農法による米作りなど、保護者や関係機関・団体の協力のもと収穫された農作物は給食に取り入れたり、餅米は12月の餅つき行事の後、独居高齢者の家庭にプレゼントするなど地域に根ざした活動も併せて行われています。

花のあるまち
紫ダイコン
（3月）

あさぎり町
町勢要覧 2004

匠 樺山鍛治工場

樺山　明さん

国道219号線沿いの鍛冶工場に工房「Libra」の看板が掛けられたのが2000年。持ち前のセンスと努力でめきめき頭角を現し、工芸展・美術展の常連に。そして、独学で学んだ技法に物足りなさを感じ始めた2002年、チャンスが訪れました。九州電力主催の「若手工芸家国内外研修制度」に応募し採用され、ロートアイアンの本場ヨーロッパに渡りました。まずイタリアで鍛造（たんぞう）マエトロに師事し、鍛鉄造形の基礎を学びその後、ドイツに1ヶ月間滞在し、本場の技術と薫陶（くんとう）を身に受けて4ヶ月間の留学を終え帰国しました。

現在は門扉や照明道具など、主に注文の仕事をこなしますが、燭台（しょくだい）やフォトフレームなど生活雑貨も店先に並びます。スローライフ発祥の地イタリアにおいて、技術はもとより、潤いを求めながらもシンプルな日常を送るライフスタイルの中から、ストレートにものを考えることを学びました。「考え込んでいたら臆病になるから思い切りも大事」と、さらなる飛躍の時を迎えています。

人 船大工

豊田　昭吉さん

吉・球磨地方は、日本三急流の球磨川、清流・川辺川を擁（よう）し、日本一ともいわれる鮎が生息しています。毎年6月1日の解禁日には、太公望たちが、待ち構えたようにそれぞれのスタイルで鮎釣りに挑みます。

FRP（強化プラスチック製）船が主流となった今でも、球磨川や川辺川には、スギで作った船が浮かび、球磨川・川辺川の風物詩ともなっています。

一子相伝の船大工の技術を、父・鎮馬さんから受け継ぎ40年余、毎年欠かすことなく手作りの船を球磨川・川辺川に送り出してきました。しかし時代の流れとともに船大工の数も減り、今では熊本県に唯一の存在となりました。

一年のうちの半年～4ヶ月が船作りに費やす時間ですが、全長8メートルの共釣り用の船が、長年培われた技術と勘によりまるでパズルを組み立てるように仕上がっていきます。「決められた時間で動く会社勤めは、自分にはでけんですね」と、仕事の後の晩酌を楽しみにマイペースでの仕事を貫いています。